

関係者に話を聞きました！

生活支援コーディネーターの声



三木市社会福祉協議会
生活支援コーディネーター

地域住民へのアンケート調査を行うなど話し合いを重ね、現在の移動販売の形ができました。「早く移動販売に来てほしい」という地域の方の声もありましたが、既存店舗への配慮や利用者の安全が確保できるかを丁寧に確認しました。現在は、3カ月に1回、定期連絡会で状況を共有し、改善を重ねています。地域の変化に応じて内容を見直し、生活支援コーディネーターが関係者をつなぎ調整することで、よりよい運営が続いています。

事業者の声



生活協同組合コープこうべ
移動店舗担当

移動店舗は、基本的にドライバー1人で担っています。準備、片付けなど、地域の皆さんの協力のおかげで、安全に運行することができています。毎週、同じ担当者が地域を回ることによって顔なじみになり、安心感が生まれ、地域の見守りにもつながっています。これからも移動店舗の機動力を生かして、地域に寄り添い続けることが大切だと考えています。今後も地域の方や関係者と話し合いながら、よりよい形を探り、移動店舗を継続していきたいです。

一緒に地域づくりを考えてみませんか～



「困っている人がいる」「このまちで暮らし続けたい」そんな思いをきっかけに、住民同士が知恵を出し合うことで、支え合いの形は少しずつ広がっています。

特別な資格や大きな行動がなくても大丈夫。あなたの気づきや声が次の支え合いにつながるかもしれません。

このまちで、これからも安心して暮らし続けるために、一緒に、地域づくりを考えていきましょう。

編集後記

移動販売車の到着を待つ間、地域の皆さんが自主的に机を運び出し、商品を並べる準備を進める姿が印象的でした。その中には、お子さんの姿もあり、世代を超えた協力が自然に生まれていました。移動販売は単なる買い物ではなく、人と人がつながる交流の場であり、地域のぬくもりを感じるあたたかな時間が流れていました。今回、取材に協力してくださった皆さま、ありがとうございました。



買い物支援から広がる
協働のかたち

～生活支援体制整備事業の一例を紹介します～

スーパーマーケットやコンビニエンスストアなどの店舗が減少し、日常生活に不便を感じている地域もあります。

ここでは、吉川ふれあいまちづくり協議会の会長を務める密さんに移動販売の導入に至った経緯や導入後の変化などについて話を聞きました。

移動販売を導入したきっかけ

移動販売を導入したきっかけは、地域で買い物ができる場所が減少していることに対し、地域住民からの要望があったからです。さらに、高齢者も増加してきており、便利な買い物手段を提供する必要性を強く感じたことが、導入の背景にあります。

協働で実現した移動販売

まず、どのような事業者が移動販売を行っているかを知るために、他自治体の事例など情報収集を行い、地域の方、事業者、生活支援コーディネーターが一体となり意見交換を重ねました。さらに、生活支援コーディネーターと一緒に地域住民へのアンケート調査を行い、住民の声を丁寧に拾いあげました。その結果を踏まえ、必要とされる商品や望まれる販売方法など、地域にとって本当に必要な形について検討しました。

車体についても、実際に移動販売車を見学し、利用される方の立場で考えました。商品が見やすく、シルバーカーを利用していても段差を気にせず買い物ができるように配慮し

導入後の地域の人の変化

ました。こうした立場を超えて支え合う三者の協働により、移動販売が実現しました。

買い物がいやすくなったことはもちろん、地域の人々とのコミュニケーションが大きく広がりました。週に1回の移動販売を心待ちにしている高齢者の方も多く、「移動販売のアナウンスが流れると嬉しい」といった声もあがっています。買い物をきっかけに、これまで顔を合わせなかった住民同士が会話を交わし、地域内の交流が深まっていると感じています。



さらに、いつも利用されている方の姿が見えない時には、自宅を訪ねて声をかけるなど、さりげない見守りにもつながっています。移動販売は、買い物支援にとどまらず、地域の安心を支える大切な役割を果たしています。

心豊かに住み続けられる地域に

「買い物支援」を大切に、移動販売が長く続くようにしていきたいと考えています。また、みんなが集まり、顔の見える関係性を築くことができる居場所づくりにも力を入れたいと思っています。今後も住民一人一人と対話をし、心豊かに住み続けられる地域をめざします。

インタビュー！

吉川ふれあいまちづくり協議会
会長 密 祐浩さん

